

向陽小学校のビオトープを考える会

Bio通信

2012.11
第5号



グリーンカーテンフォトコンテスト
アイデア部門 最優秀賞受賞!!!
おめでとう!



環境省のグリーンカーテンプロジェクト2012で
向陽小学校ランチルーム前のグリーンカーテンが
フォトコンテストで最優秀賞を受賞しました

テーマは「竹と麻を織り交ぜた人と地域のつながりゴーヤカーテン」



P.2 秋って、どんな季節だろう...

行こうよ! 秋まつり2012

P.3 稲刈りと脱穀

ちんじゅ 鎮守の森から・団栗

P.4 いきなりクイズ

フラとんぼ贈呈式

たけさんが行く

身近な生きものをもっと知ろうの巻

編集後記

黄葉と紅葉

秋は落葉樹の多くが葉を落とす前に鮮やかな赤色や黄色に変わる季節。この様子を「もみぢ」「もみぢ」といいますが、なぜ葉を落とすのに「もみぢ」するのでしょうか。今回は、その仕組みのお話です。

葉は光合成というお日さまの光を使って栄養分を作り出す働きをしています。この働きには光に反応する色素が必要で、もともと葉の中には緑色のクロロフィルと黄色のカロテノイドという色素を持っています。秋になり気温が下がると落葉樹の葉は色素を分解して茎や根に栄養分として回収します。その時クロロフィルは早く分解されるため葉から緑色が消え、ゆっくり分解されるカロテノイドの黄色が現れます。これが黄色い葉になるイチヨウの木などの黄葉です。

一方、モミジなどの紅葉は、赤くなる理由はまだよく分かっていません。その仕組みもよく分かっていません。まだ全く解明されていませんが、気温が下がると黄葉と同じように栄養分の回収が始まります。すると葉はお日さまの光に弱くなるのでアントシアニンという赤色の色素を作り葉を守る。これが紅葉の仕組みだと考えられています。

また、黄葉や紅葉が始ると葉のつけ根に「離層」といわれる部分をつくり、水や栄養の通り道をふさぎ、役目を終えた葉をはがれ落ちていきます。枝にははがれ落ちた「葉痕」と葉や花の赤ちゃん「冬芽」が残ります。次の季節を迎えるのです。

黄葉と紅葉
落葉樹の華やかな冬支度なのです。

※参考図書：大自然のふしぎ 植物の生態図鑑 学研

いきなりクイズ

秋に赤く紅葉する木は?

- ① モミジ
- ② イチョウ
- ③ クヌギ

☆ヒント

・別の呼び名は「カエデ」
葉っぱがカエルの手「カエルデ」
のようなカタチだから。

*正解は次の号でね



応募について

名前、学年、連絡先と
5号 / 答えの番号を紙に書き
職員室前「フレンズランドポスト」
へ投函してください。
正解者の中から3名に
鎮守の森の会 上田 雅二さん
特製「フラとんぼ」をプレゼント!

難しい!!
文章クイズだったのに...
素晴らしい答えに感動~!
素晴らしいアイデアを
大切にしたい!!
ありがとう!!

当選発表 第4号・7月

応募数: 2名
当選者: 4年 合木 菜樹 さん
4年 細田 ねね さん

フラとんぼ 贈呈式

11月15日3号のフラとんぼ
贈呈式が校長室でありました。
3号は応募者が17人と多かった
ので当選した3人は強運の持ち主☆
みんないい笑顔でした(^_^)*



おめでとう

みなさん、はじめまして!
これからBio通信に登場する?! たけです。
生きもの好きのお兄さん!! (けっしておじさんではありません 笑)
好きな生きものは植物、とくに木が好き。
いろいろな自然をつかったゲームや植物のたのしい
マメ情報も知ってるよ。



見かけたら「たけさん」ってこえかけてね!!

《身近な生きものをもっと知ろうの巻》

みんな、夏休みは楽しめた?
生きものと出会う機会がいっぱいだっただろうか。
向陽小のビオトープを考える会では、向日神社の流し
そうめんのイベントで、「森や草地や水中にいる生きもの
の標本を使った展示&体験会」をしました。
『生きもの好き!!』でも、捕まえられないし、虫は怖いし、
痛いヤダ...』とか「どうも生きもの苦手一っ!!』とい
うみんなのために樹脂標本(※1)を用意しました。こ
の標本はどれも曇っていて、とても観察しづらい。とい
うことで、みるだけじゃなくて標本作りの仕上げを手伝
ってもらいました。
荒さの違う紙ヤスリを順番に使い、ピカピカに磨い
てもらいました。みんなががんばって仕上げをしてく
れたおかげで、標本はもうピカピカ!! 中身がよく
みえて観察しやすくなりました。

標本ってどんなの? どうやって作るの? って思ったら、

(※1) 標本とは、本来、生きものを長い間保存したり観察したりするためのもの。
今回使った標本は、乾燥した生きものをプラスチックの薬品に閉じ込めて固めた樹脂標本です。

思い切って調べてみ
よう! 面白いことが
いっぱいだよ!!
今回のイベントで
は、外国の大きな
カブトムシ、でっ
かいバッタ、小さく



てこれなんだろうと思ってしまう昆虫もいっぱいだった。
でも、よくよくみてみると...『あれっ? みたことあるっ!!』
そうそう、この標本の中には学校の夏前のプールにい
るような、生きものも混ざっていたのです。みんなの身近
なところにもいろいろな生きものが住んでいることを知っ
てほしいな... と思いながら、ボクは展示のお手伝いをし
たのでした。

これからもまだまだ続く...

◎ 追伸:

食いしん坊
でもあるたけ
さんは、流し
そうめんにも
夢中になりました。流し素麺おいしかったです、コッ
ソリつまみ食べました、人間も生きものだからおい
しそうなものには目がありません(・3・)ゞ



編集後記

紅葉前線は、9月中旬に北海道大雪山を
皮切りに高地や北から南下してゆきます。標準木は
イロハモミジでそのスピードは一日で約27km、おおよそ50日
かけて日本列島を通り過ぎるそうです。フレンズランドのモ
ミジも11月下旬頃見ごろとなるでしょう。
さて、11月にBIO通信は1周年を迎えました。フレンズ

ランドを通して人と地域と生きものをテーマにした、ビオトープ
を考える会の活動と、ご愛読くださった皆さまに心より感謝申し
上げます。これからも、身近な
生きものと活動情報を発信いた
します。どうぞよろしくお
願いいたします。

☆Bio通信に関するお問合わせ、ご意見ご感想
などございましたらフレンズランドポストへ
お寄せください。
発行 向陽小学校のビオトープを考える会
HP: <http://koharusya.jp/biotope>
2012.11 編集 / 玉井 啓子

秋って、

どんな季節なんだろう

文・向陽小学校のビオトープを考える会

神松 幸弘

暑い夏は過ぎ、すずしくなりました。朝、目がさめても、温かいお布団から出るのがつらいという人もいるでしょうか？

秋です。
秋って、どんな季節でしょう。

「ゆづりやけこやけの赤とんぼ」

「秋の夕日に照る山もみじ」

秋といえば、赤や黄色な景色や



生きもののお話を思い浮かべるのではないのでしょうか。

千年ほど昔の人も
「秋は夕暮れが一番好き。」

またある人は、

「山の中で、落ち葉の上を歩いていくシカの鳴き声を聞く秋は、かなしいなあ。」
と、書いています。

なるほど、夏にギラギラと照った太陽も、秋にはおだやかな光に変わって、山の端に沈むようすはなんだか、かなしい。夏に捕まえたカブトムシも、たくさん鳴いていたセミもいなくなった。静かな秋は、やっぱり、さみしい。

けれども、「秋はさみしい」という考えを頭の中からなくして、自然のよすすをのぞいてみましょう。すると、秋のさまざまな姿が見えてきます。

秋にはいろんな顔がある

秋はとてもはなやかです。

春に負けないくらい、たくさんの花が咲きます。

秋の七草は、白、黄、赤、青、紫、ピンクなど花の色もさまざまです。そして、たくさんの虫たちが忙しそうに花から花へと飛び回ります。

多くの木々が紅葉して、やがて葉を落とすのと反対に、秋に緑の葉を茂らせる植物もあります。向日市の特産でもあるタケです。タケは春に葉を落とし、秋が近づくと新しい葉を生やします。

だから、若竹が伸びる秋を「竹の春」といいます。

また、秋はカキやクリ、キノコなど山の幸が豊かな季節です。人間も昆虫も、ネズミやサルやシカにイノシシ、クマだって、秋はみんな山の恵みの取り合いです。もうじき冬の渡り鳥たちも食べ物を探して、飛んでくるでしょう。生きもののくらしをみると、秋のいろんな顔がみえてきます。秋はにぎやかで、それぞれに忙しい季節でもあるのです。

ちよんなんもん 避難問クイズラリー

おやこ 親子のつどい

行こうよ！秋まつり2012

9月8日(土) ビオトープを考える会が 展示体験コーナーで出展しました。

立ち寄ってくれた皆さま ありがとうございます！！

絵がこう！

水辺を

生態展示 水辺の楽校

メダカの楽校

はねの模型で... 鳴く虫体験

5年生の米づくり学習

豊かにみのり・稲刈りと脱穀

ビオトープの田んぼで、今年も5年生が環境学習でお米づくり。厳嶋さんのご指導のもと、ビオトープの稲は豊かにみのりました。

5年生のお米づくり学習は、10月5日に稲刈り、10月27日に脱穀を終え、賑やかだった田んぼも今ではガランと静まり返っています。振り返ってみるとお米づくりは田植えや稲刈りだけではありませんでした。春に厳嶋さんに土づくりをしてもらった田んぼに、乙訓地方の農事暦にならない6月はじめ田植えをし、水を絶やさないと5年生が交代で水の管理をし、夏休みの始まる土用の頃に水を抜き、稲穂が出たら再び稲刈りの1週間前まで水を入れる…

太陽と水と土そして人が自然に逆らわないお世話をしなくては、おいしいお米がみられない。収穫したお米を食べながら、そんなことを感じてくれたら、みのりの多い学習になったと思います。

(五井)



ちんじゅ 鎮守の森から

第五話 団栗



二〇一八年に向日神社は遷座 一三〇〇年を迎えますが、中村修さんは五〇〇M北にある寺戸山から移されたのではないかと著書『この原像』に書いています。

弥生時代に稲作がもたらされ、農作業に必要な冬至や夏至、春分、秋分などの観測が始まりました。中村説では寺戸山が観測地です。観測はリーダーの仕事で、死後リーダーを祀る五塚原古墳がつけられました。一七〇〇年以上のことで、卑弥呼の墓とされている箸墓古墳(奈良県桜井市)に似ており、倭王権のメンバーだったと考えられます。向日神社のしおりに、向日神は稲作を奨励した神様と書かれています。

鎮守の森には八種類の団栗のなる木があります。クリも団栗の仲間、他にスダジイとツブラジイ、



文・上田昌弘